

「芸術の秋にふれる!!」平成23年度せたな町民文化祭開催

今年度の町民文化祭がせたな町内各区において盛大に開催されました。

「作品展示の部」では、個性あふれるアイデア作品や工夫を凝らした作品など、芸術の秋にふさわしい数多くの様々な作品が出展されました。

また、「芸能発表の部」では、小中学生、高校生、文化団体やサークルの方々が出演し、合唱や器楽演奏、郷土芸能や日本舞踊、ダンスなどが披露され、日頃の練習の成果を思う存分発揮していました。

■作品展示の部

大成会場 [大成町民センター]
10月29日(土)～10月31日(月)
出品点数798点／鑑賞者約250名



瀬棚会場 [B & G海洋センター体育館]
10月29日(土)～10月31日(月)
出品点数800点／鑑賞者450名



北檜山会場 [ふれあいプラザ]
10月29日(土)～10月30日(日)
出品点数904点／鑑賞者350名



体験コーナー

■豆腐作り講座／■三味線体験



■絵手紙講座／■ちぎり絵講座



■茶道教室／■絵手紙講座
■読み聞かせの会



▼冬の星座たちが夜空を乱舞する季節になつてきた。星は古く東へと誘う。平安京に都があつた頃、清少納言も「枕草子」の中で星にまつわる随筆を残した。「星はすばる、ひこぼし、うづつ(宵の明星)……」と。

▼オリオン座の三つ星やおおいぬ座のシリウスなど、数多ある星たちの中でも、いの一歩ある散らした星団プレアデスのことである。

▼ギリシャ神話のプレアデス7人姉妹に由来し、秋から冬にかけてが青白く輝いていく7個の星エカタログではM45と登録されている。

(ちなみに、「ウルトラの星」はオリオン座のM78星雲の中にある「惑星雲の国」とのことだが、これは勿論架空のもの。)

▼和名スバルは「一つに集まる」という意味の「統(すばる)」から名付けられ、その後、中国の名の表記「昴(ほう)」を当てたものと思われる。ほろ酔い機嫌のオジサンたちがカノオケで熱唱する「昴(すばる)は、この星たちのさんざめく様子から生まれた。

▼天文民俗学者・野尻抱影氏によると、星たちは地方によってさまざな名前前で呼ばれてきたとのこと。スバルに限っても、六連星(むつらぼし)、七つ星、七夜星、一升星、五合星、群がり星、集まり星、鈴生り星(すずなりぼし)、九曜の星(すずなりぼし)など、「ゴチャゴチャボシ」「ロクチョンボシ」「ホキボツサン」などは、いかにも方言らしい。

▼北海道では何と呼ばれているのか調べてみたが、「六つ星」くらいしか探せなかつた。せたな町や道南では、「スバル」以外に別な呼び名があるのだろうか？





■ 芸能発表の部

大成会場 [大成町民センター]
11月5日 (土)
出演7団体 / 鑑賞者約300名



瀬棚会場 [瀬棚町民センター]
11月6日 (日)
出演10団体 / 鑑賞者250名



北檜山会場 [ふれあいプラザ]
11月13日 (日)
出演16団体 / 鑑賞者約350名



■ 高齢者大学修学旅行！



10月19日 (水) ~ 20日 (木) 白老方面を研修地として1泊2日の日程で実施され、北檜山いきがい学園、大成くおん大学、瀬棚寿大学の学生43名が参加しました。

白老町では、仙台藩白老元陣屋資料館を見学し、また、アイヌ民族博物館にて文様刺繍、文様彫刻などを体験しました。この修学旅行で、歴史や文化に触れ有意義な研修となりました。

また、この2日間で3区の学生それぞれの交流が深まり、より一層の触れ合いの輪を広げながら、いい仲間・いい思い出を作ることができました。

■ B&G瀬棚海洋クラブが優良海洋クラブ表彰受賞！



10月25日 (火)・26 (水)、名寄市で開催した「平成23年度教育長・責任者海洋センター・海洋クラブ活性化会議」～北海道ブロック～において、B & G瀬棚海洋クラブ(代表駒谷 正義氏) がカヌーで川下りなどの海洋性レクリエーション活動や水の安全教育など活発な活動が評価され、5段階評価の特Aランクとなり、B & G財団から優良海洋クラブとして海洋クラブ表彰を受けました。